

個と孤が連なって

都会で暮らす一人暮らしのひとたちは、多くのもの・人に囲まれながらも孤独を感じる時がある。

今の都市における単身集合住宅は同形態の部屋が立ち並び、オートロックで社会と住まいを断絶している。そのことが、人びとの孤独感を助長してしまっているように思う。

自分の孤独感とも、他者とも、うまく付き合っていく。

それが叶う、小規模な単身者集合住宅を提案する。

テーマ

a. 個性

他と違う ということ。
フツウと違うものが、見て見ぬふりを
されることがある。

b. 孤独

一人の時、大勢でいるとき、
ふとやってくる感情。
自分が自分に訴えているメッセージと
向き合える大切な時間。

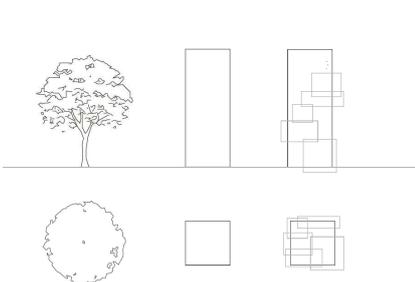
c. 他者とのかかわり

他者との距離感は、人それぞれ。
とらえ方や考え方を
うまく変化させていけばよい。

設計のプロセス

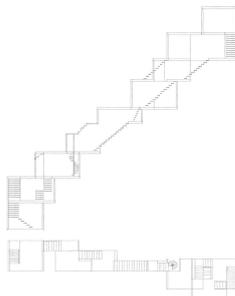
01. 場所を選びとる

もしもっと自由に
自分の部屋の環境を選べたら、
自分の感覚・感性を
大切にできるかもしれない。



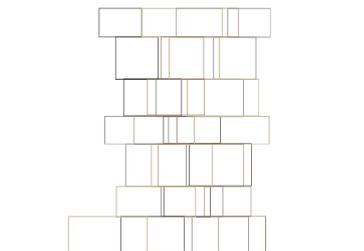
02. “縦に一本の住宅”

垂直に伸びる一本の空間。
他者が干渉する領域と個人空間の境界を
自分に合わせて設定できることは、
自分の空間を肯定することである。



03. その先、他者との暮らし

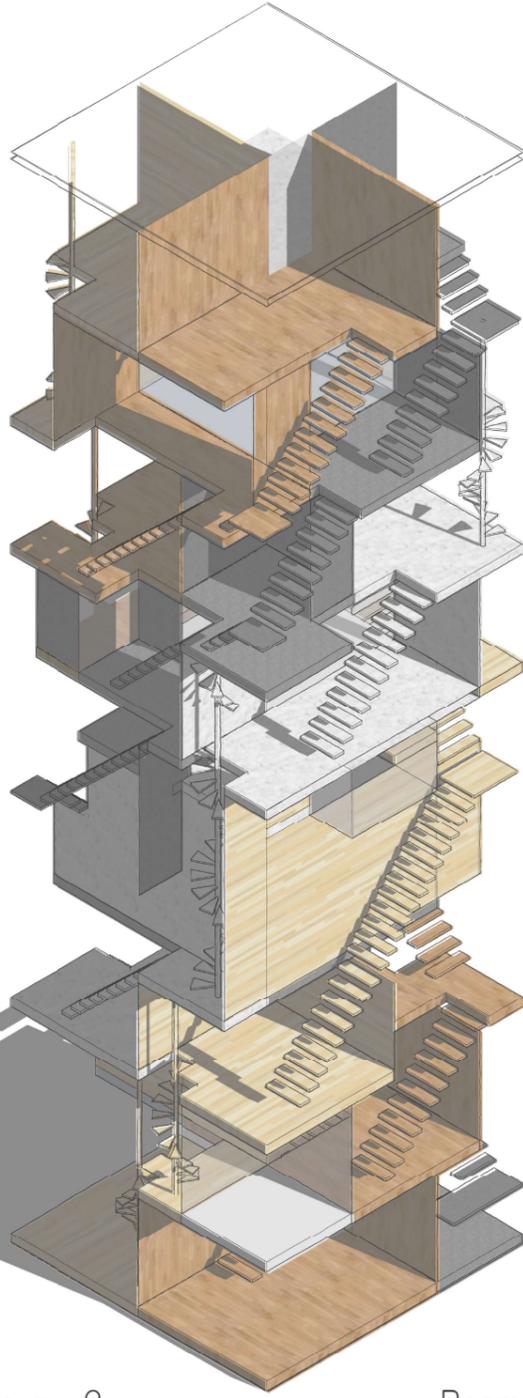
ビルの各階層から個人の住まいを
切りとり合って生まれた“よはく”では、
住民同士の関わり合いが互いの
“ちょうどよい距離”で生まれるだろう。





Tower A

「なんだかいつも、なじめない。」



Room a -1

「努力は隠れてするのが好きなんです、
見せるのは、表に立つときだけでいい。」

Room a -2

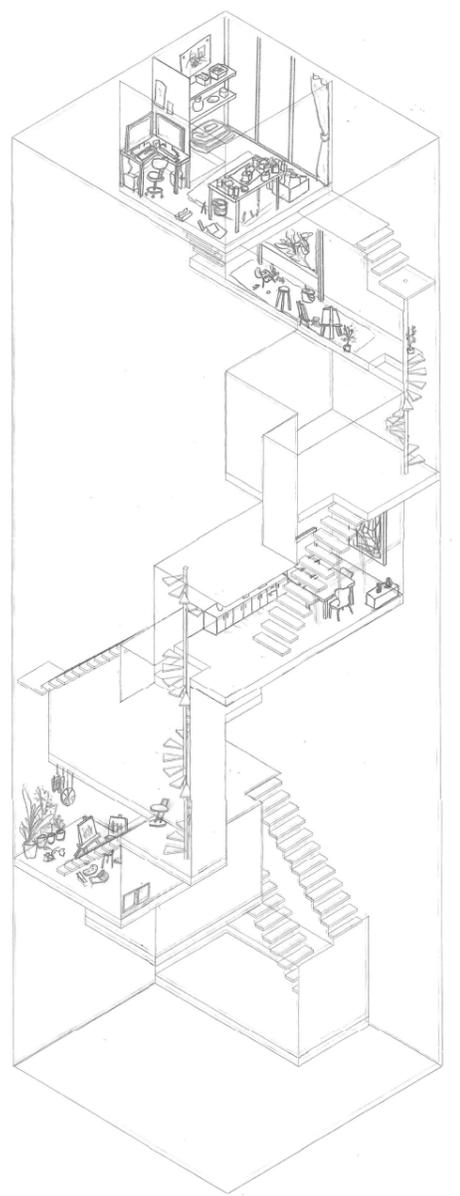
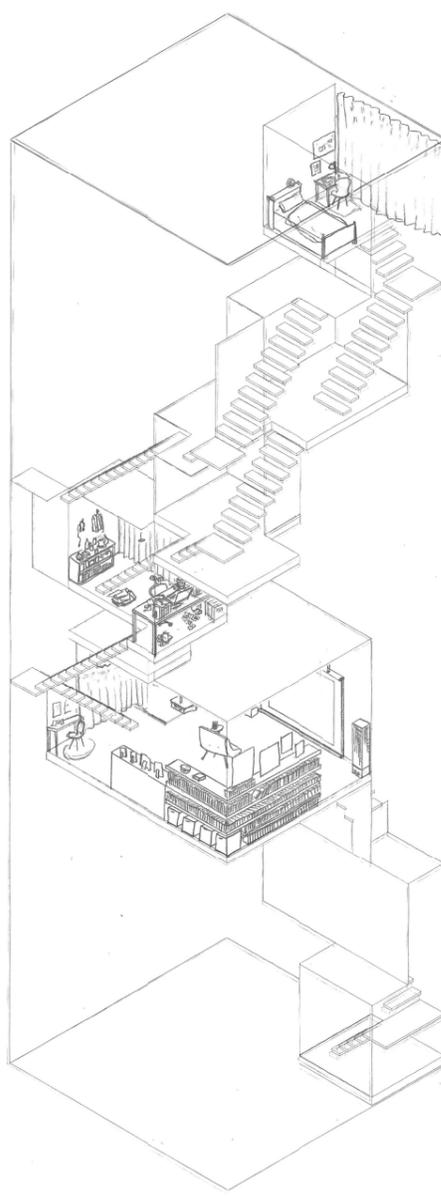
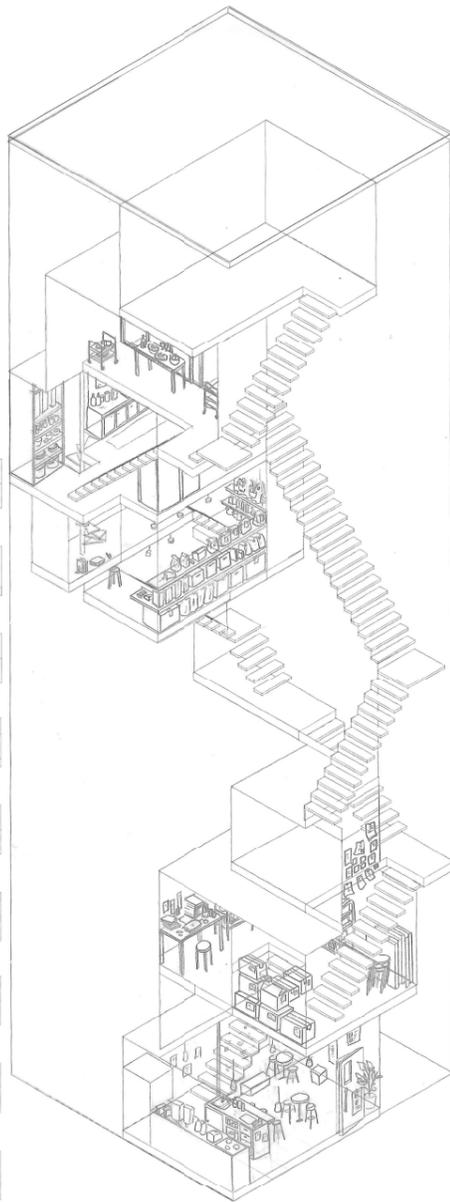
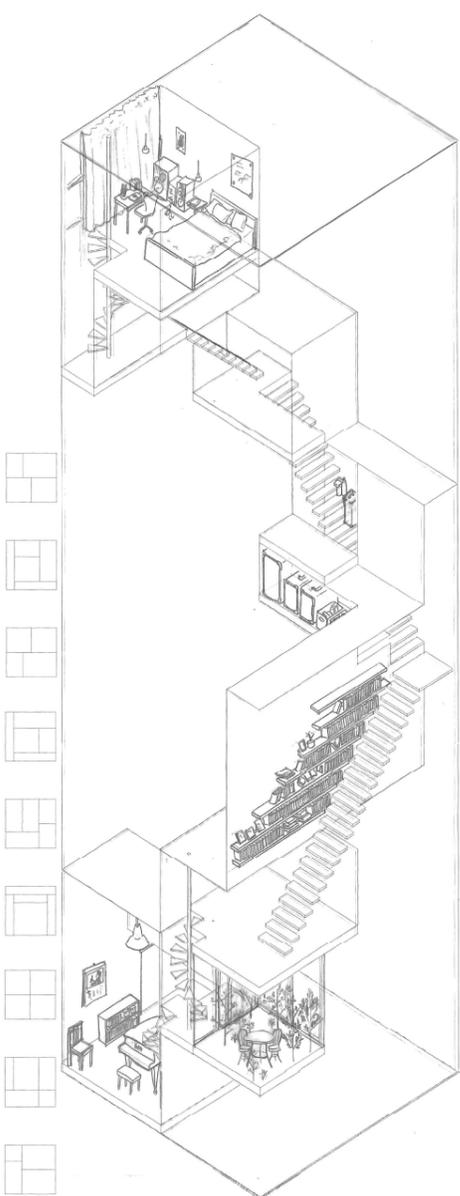
「ぜんぶぜんぶ、
自分で決めないと落ち着かない。」

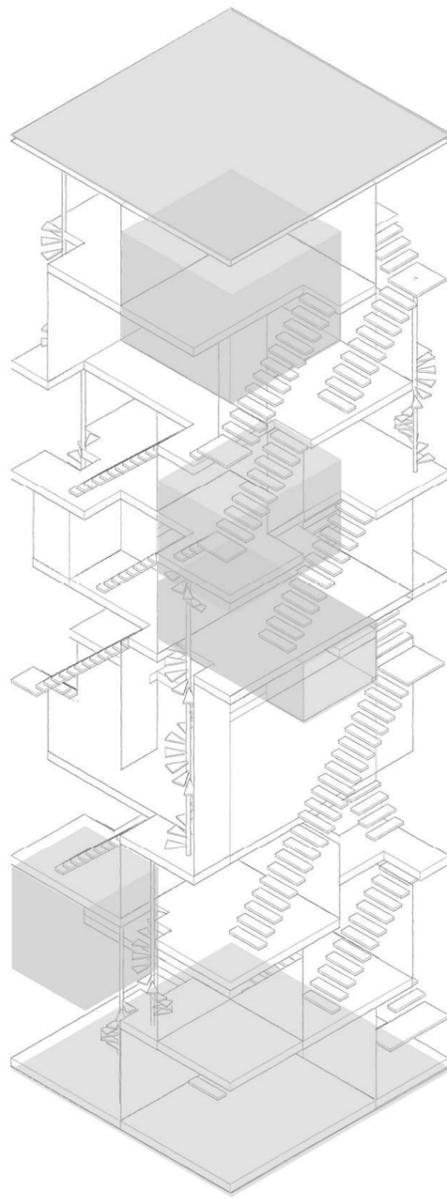
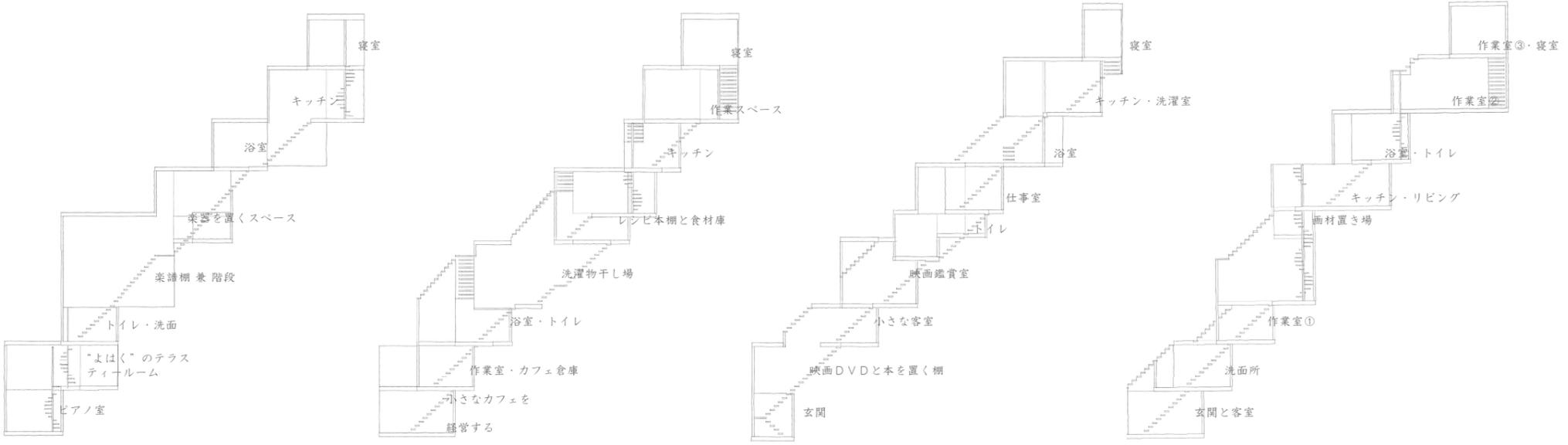
Room a -3

「集中して作業する時は、
世間からうんと離れたところに居たい。」

Room a -4

「自分のいろんな感情と向き合える環境が、
ほしかったんです。」





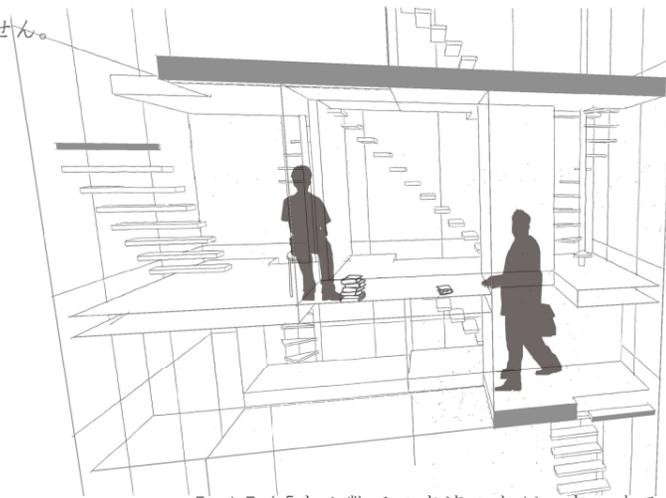
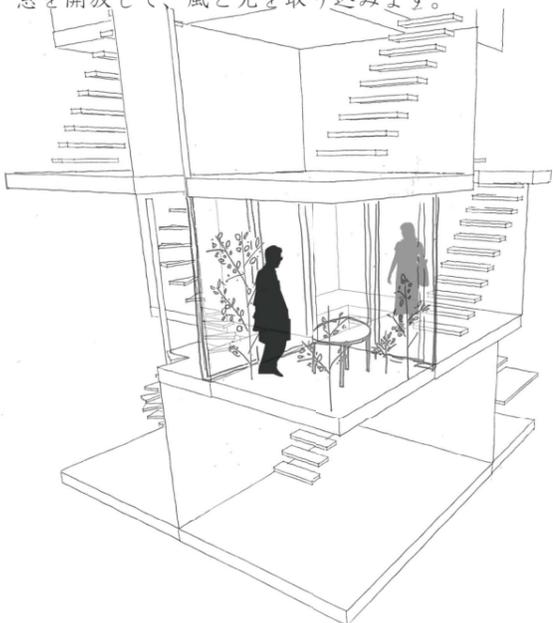
- Room a - 1 / ピアニスト
- Room a - 2 / 料理人
- Room a - 3 / 脚本家
- Room a - 4 / アーティスト

個性が強いがあまり、「他になじめない」という気持ちを抱えているひとたちが集まった棟。

自分の空間としての小さめの部屋を好んで小部屋が連続するため、“よはく”は、比較的大きな部屋がいろんな階層に、まちまちに現れる。

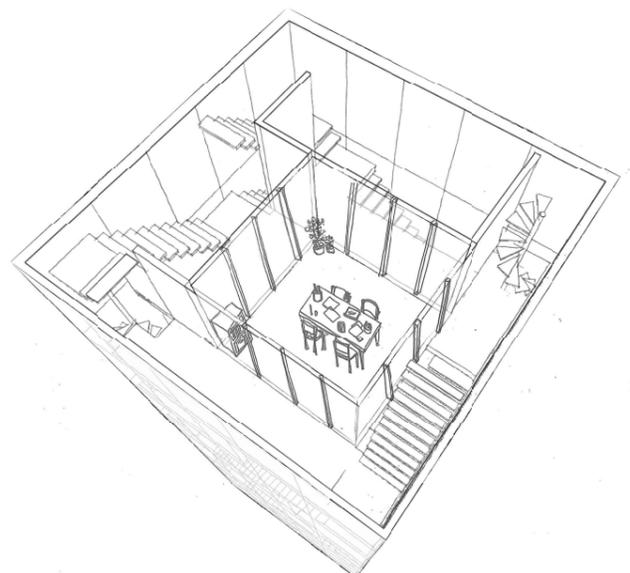
2F / 外壁に面していると、誰かと誰かの庭になるかもしれません。

窓を開放して、風と光を取り込みます。



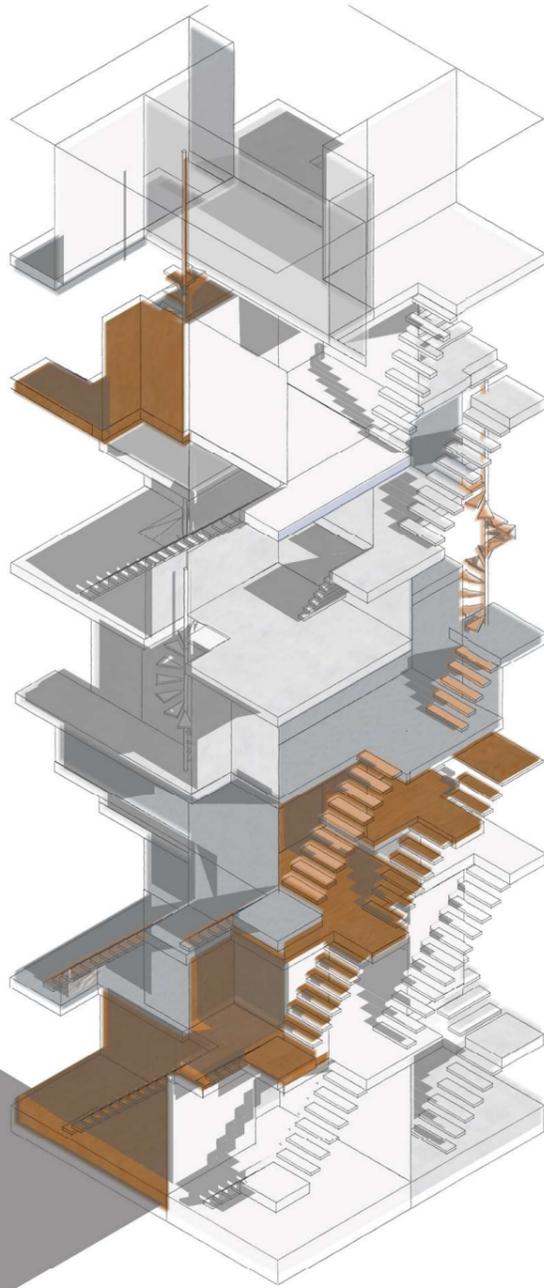
5.6F / 「少人数での交流の方が、安心する。」
まずは、一対一から。

8F / たまにはみんなで、集まります。



Tower B

「もっと自分らしく、ありたくて。」



Room b -1

「自分の性格を自分で受け入れられたら、堂々としていられるだろうね。」

Room b -2

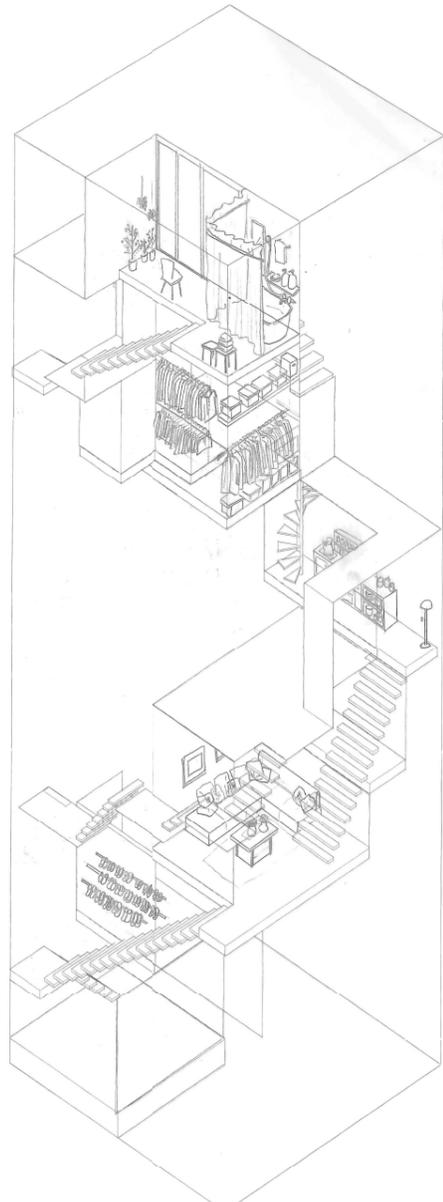
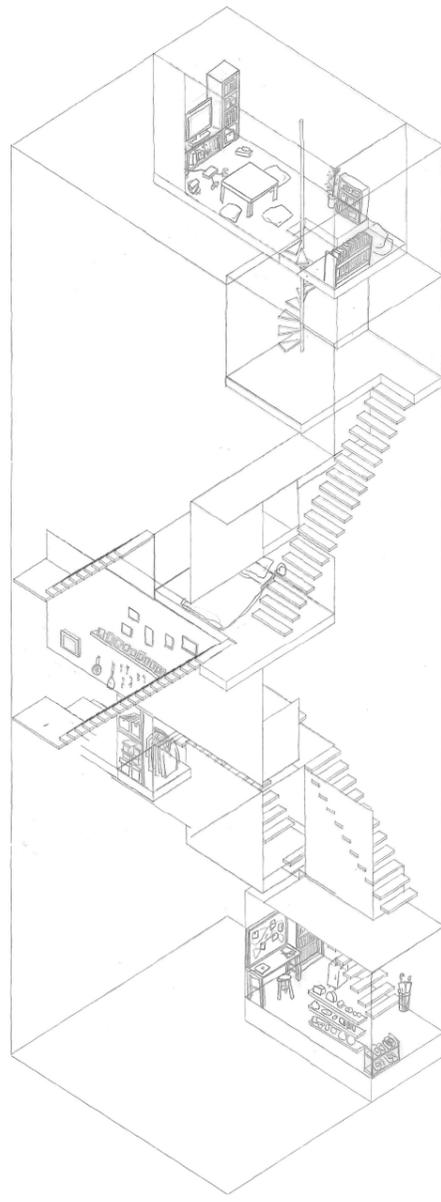
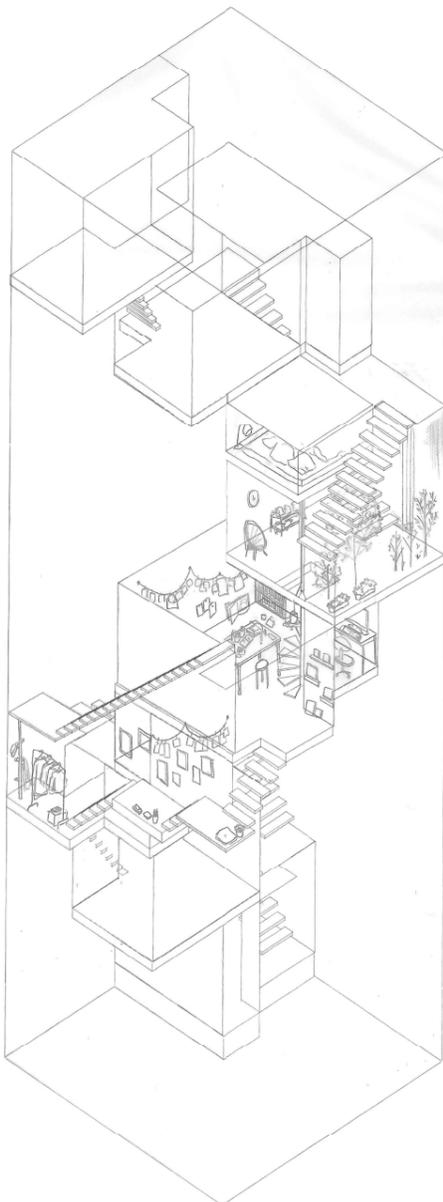
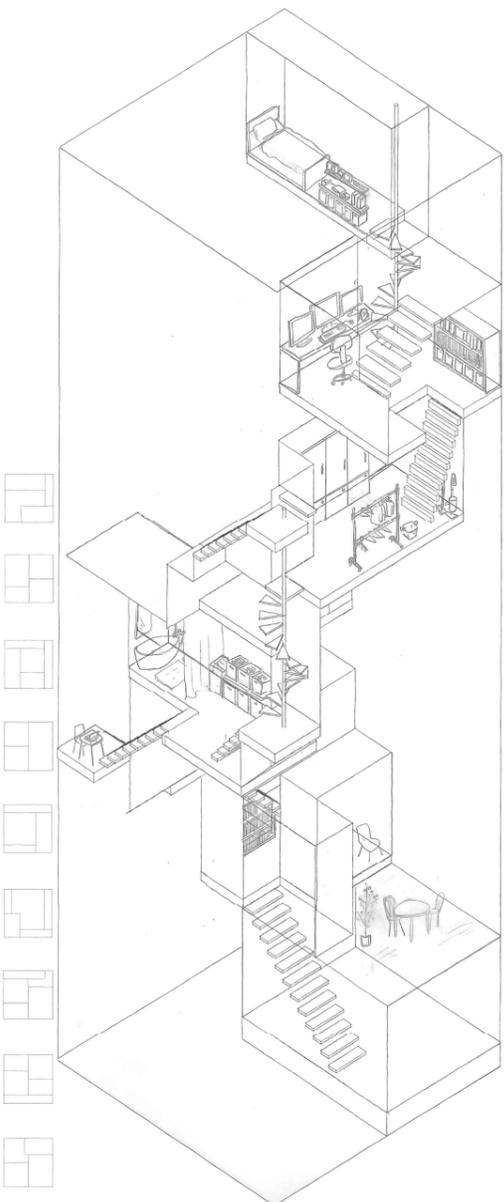
「大勢と居るのは、自分にとって刺激が強すぎる。」

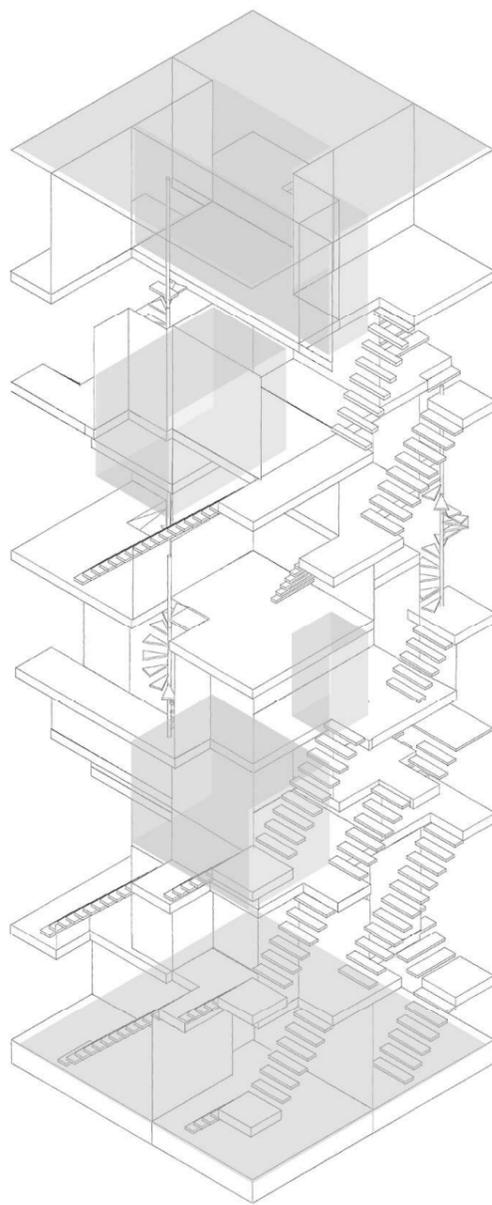
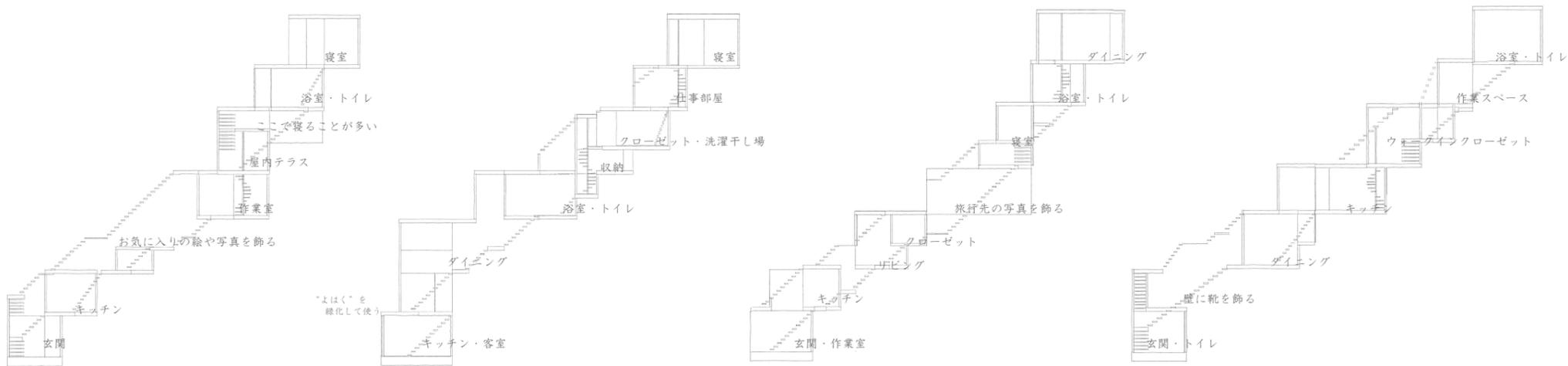
Room b -3

「少人数でいいから、本当に理解しあえる人が居てほしいんだ。」

Room b -4

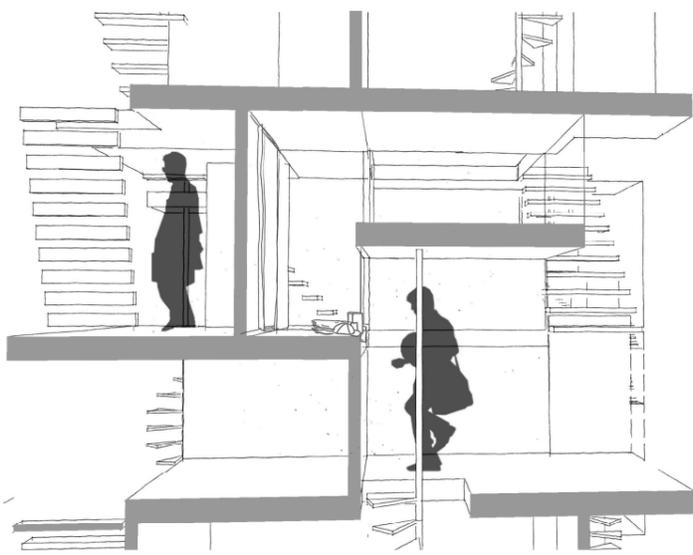
「私だけの、好きな空間を作りたい。とにかく自由にしたい。」



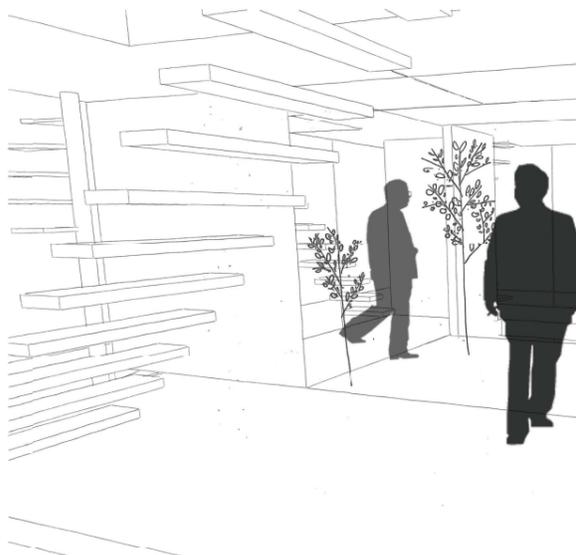


- Room b-1 / 絵本作家
- Room b-2 / プログラマー
- Room b-3 / ツアーガイド
- Room b-4 / ファッション雑誌編集者

自分の個性をもっと理解して、他者と居るときの“自分らしさ”がもっと欲しいひとたちが集まった棟。
 自分なりの部屋の使い方をしたいから、大部屋と小部屋のバランスが様々。“よはく”も大小さまざま、いろんな箇所に散らばる。



6-7F / 段差がついて、他の人の生活がちらりと見える窓に。
 高さが違うから、目が合うことはありません。

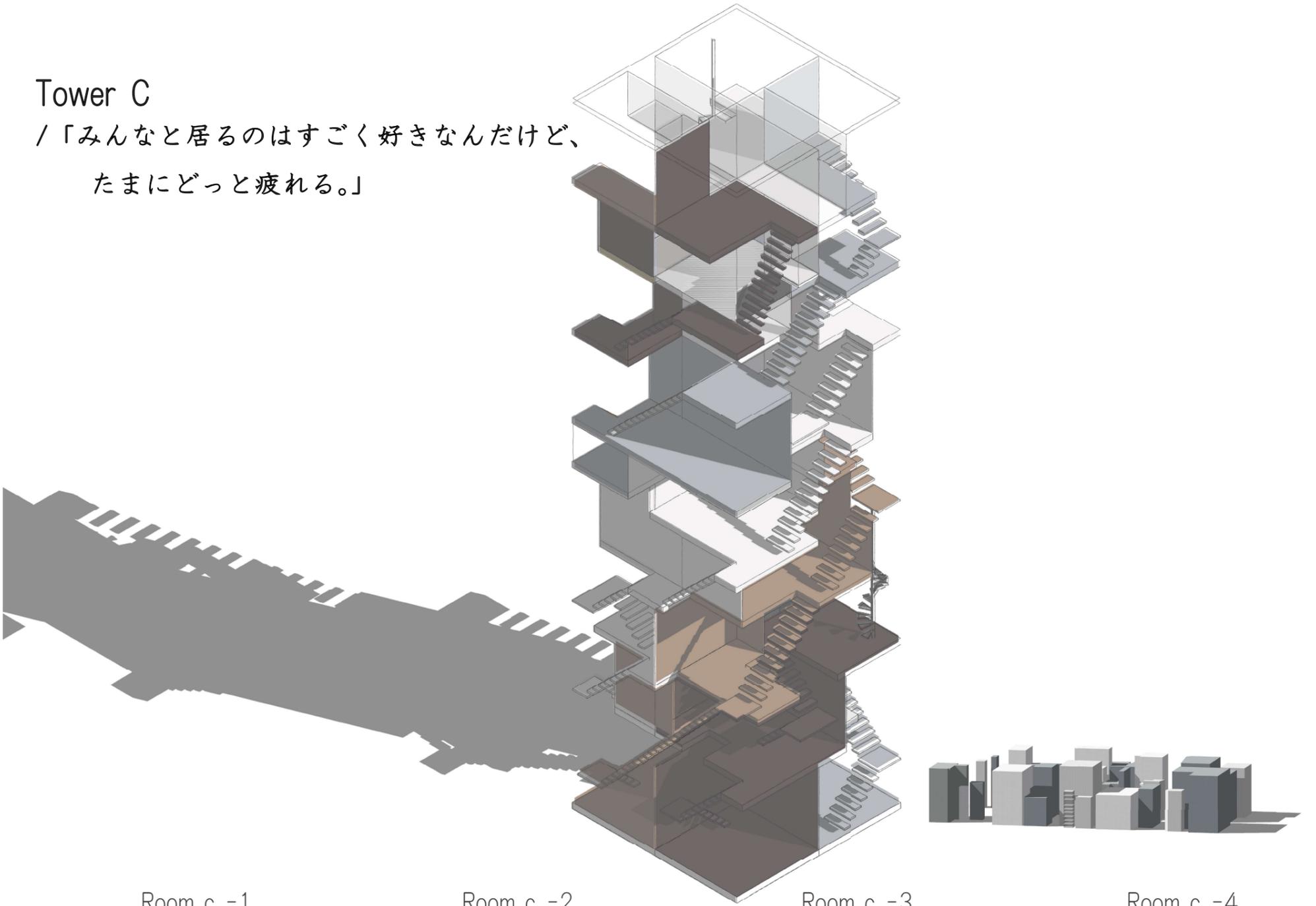


8F / テラスに出るタイミングがたまたま合えば、
 会話が始まります。



Tower C

「みんなと居るのはすごく好きなんだけど、
たまにどっと疲れる。」



Room c -1

Room c -2

Room c -3

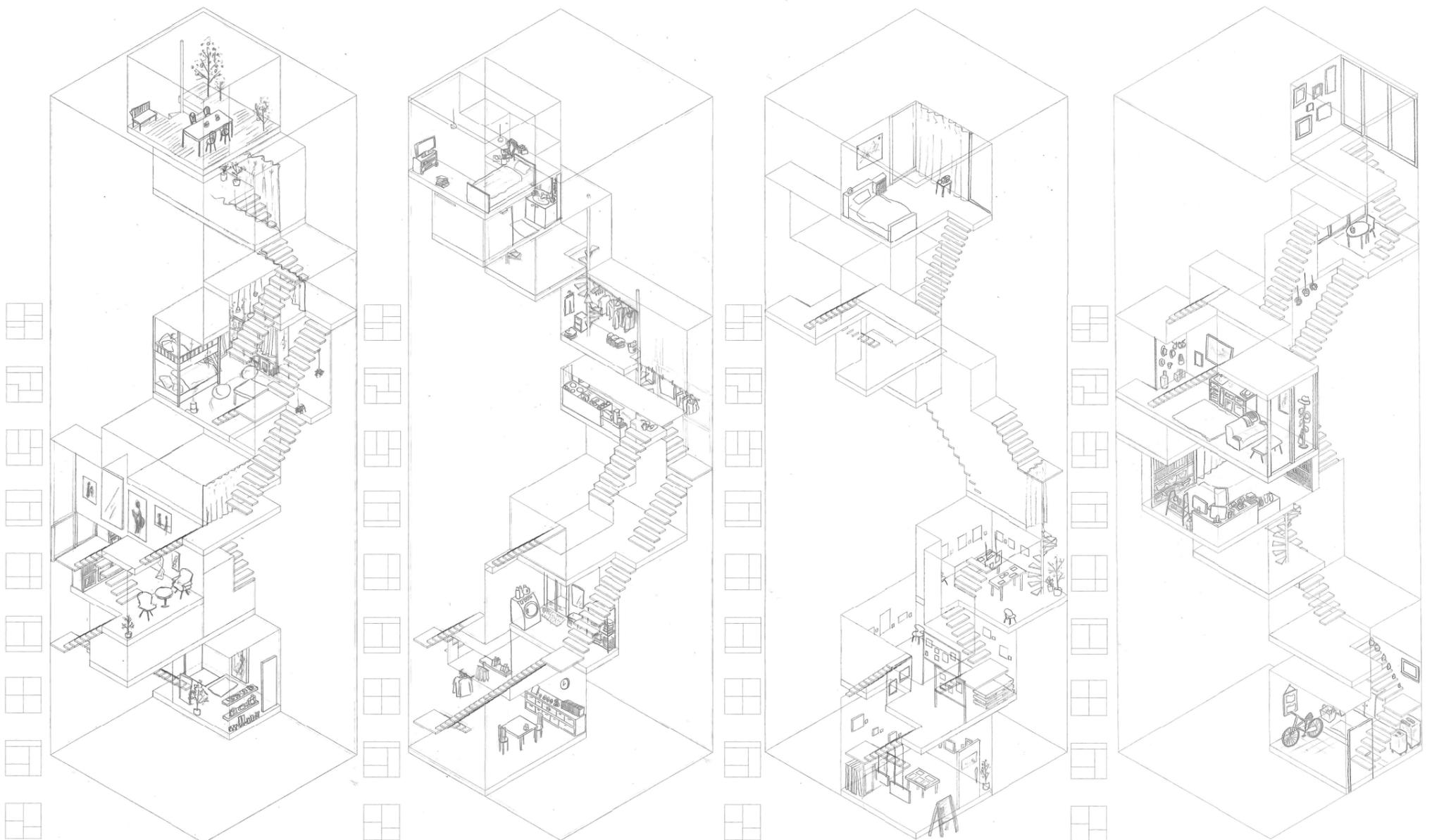
Room c -4

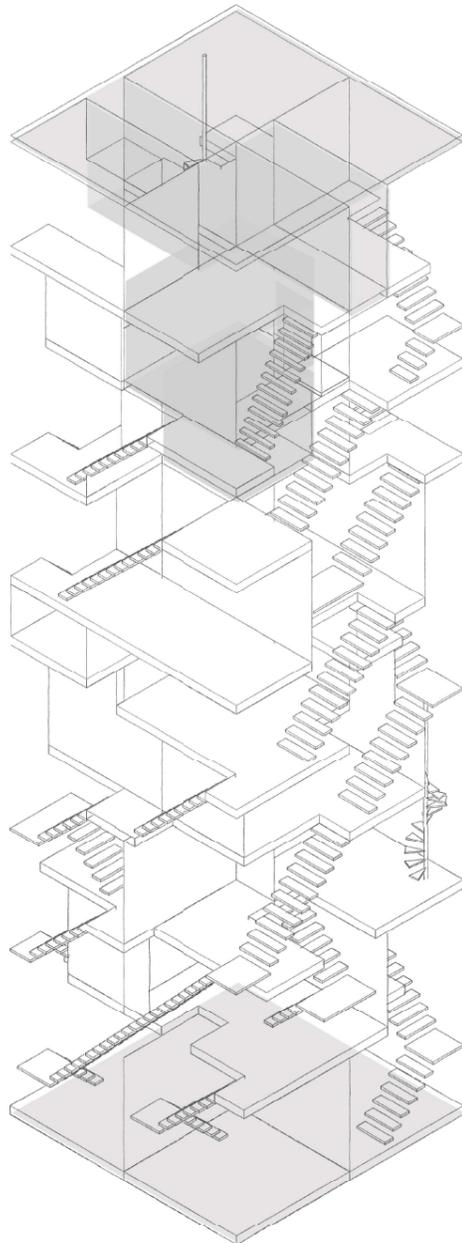
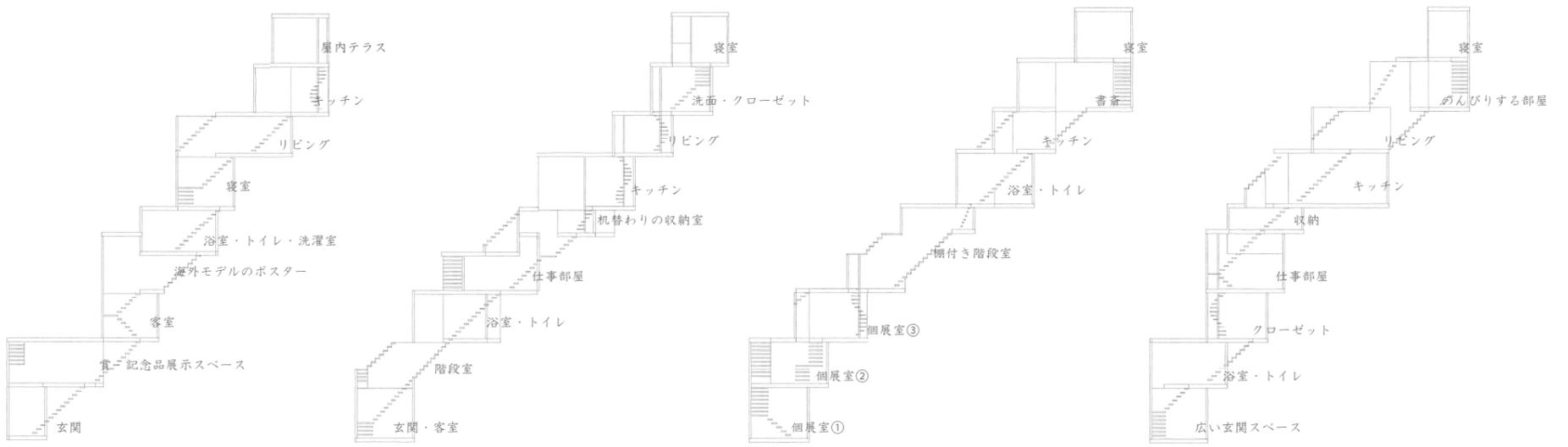
「実は、
人によってみせる顔がだいぶ違うの。」

「私のこと、社会的で明るいひとだと
思ってるでしょ。」

「私のお家に見に来てください。
ただしここから先は立ち入らないで！」

「常に新しい視点を持ってたい、知りたい。
でも人がいると、自分のことに集中できない。」

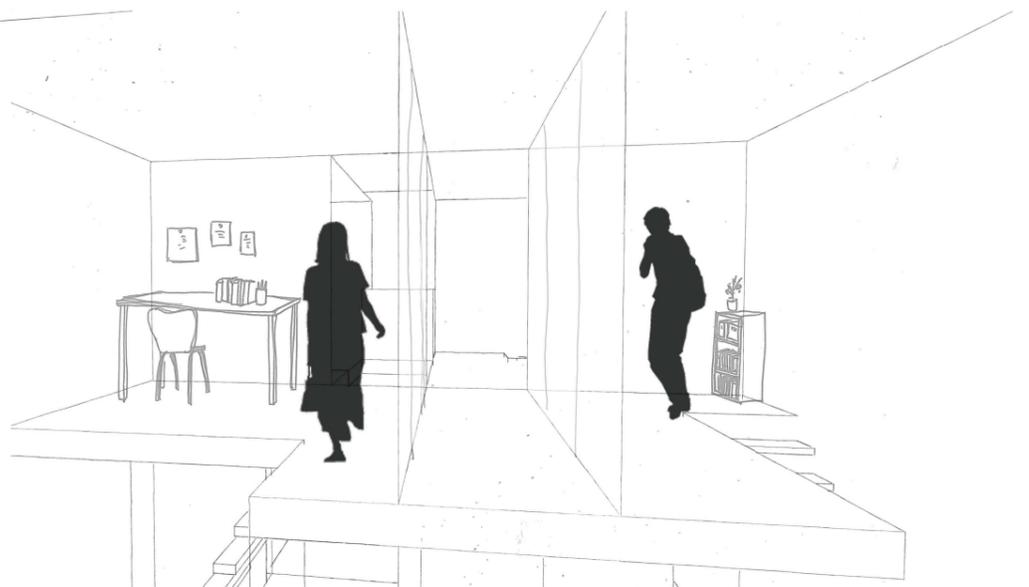
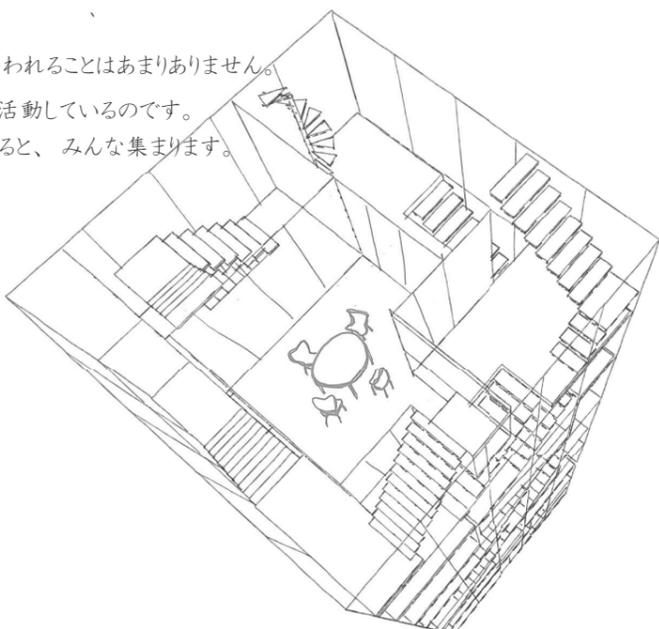




- Room c-1 / モデル
- Room c-2 / 弁護士
- Room c-3 / フォトグラファー
- Room c-4 / 翻訳家

ひととかわりが好きで活動的・社会的だけど、どこかで回りと合わせてしまう自分を感じてしまうひとたちが集まった棟。それぞれに、“ほかに見せる自分”と、“一人の時の自分”を持っている。下階には人を呼び込めるように広めの部屋が配置され、上階では一人の時間を堪能するための小部屋が連なる。すると“よはく”は上階にまとまって表れる。

7F / 普段は使われることはありません。
みんな外で活動しているのです。
8F / 休日になると、みんな集まります。



9F / “ひとりの時の自分”の延長としてみんなと接するから、
今よりもちょっとだけ、楽に他人に接する方法が見つかるかもしれません。